Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1961
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.54, No.11 (1961. 11)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19611101--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学会

三田學會雜誌

1961年 11月号

論 説

- 階層分解の不透明性……………青沼吉松 1
 ——外房総漁業についての事例的研究——
- 検地帳登録人をめぐって(一)……………速水融 21
- 中国における初級合作社の基本的性格……………平野絢子 41
 ——生産協同組合の社会主義的特質をめぐって——

資 料

- 村の商人……………渡辺國廣 75
 ——十七世紀フランス農業史研究の一齣——

書 評

- 小川喜一著『イギリス社会政策史論』……………飯田 鼎 89
- ワルトラウド・ザイデル・ホェップナー著
 『ウィルヘルム・ウァイトリング
 ——ドイツ共産主義の最初の
 理論家および煽動者』……………飯田 鼎 94

新刊紹介

54卷 **11**号

昭和25年10月24日
昭和26年11月1日
第三種郵便物認可
発行(毎月1日発行)

昭和25年10月24日
昭和26年11月1日
第三種郵便物認可
発行(毎月1日発行)

三田学会雑誌

昭和三十六年十月号

定価 金九〇円 (送料別)

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 54, No. 10

October, 1961

CONTENTS

	Page
Some Problems in the Course of Economic Development in South-east Asia.....	N. Yamamoto 1
Some Remarks on the Bullion Controversy —Ricardo and the Bullion Report—.....	M. Nakanishi 20
The German Social Democratic Party and Proletarian Internationalism During the First World War —Documents and Materials of the History of German Working Class Movement (2/4)	K. Iida 42
Measuring the Degree of Monopoly (II).....	Y. Hara 57
Book Reviews	
Foreign Trade and Trade Cycle, by Masaki Tatebayashi	K. Imura 66
A Study on the British Conservatism, by Haruo Komatsu.....	A. Shirai 73
Die Warenproduktion in ihren Anfangsstadien (Eine Einführung in die Theorie der Warenproduktion), by G. A. Koslow	H. Iida 79

Published for

KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI

(The Keio Economic Society)

Editorial communications to be sent to the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai, Keio University, Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.

Price 90 yen

新刊紹介

中島健一著『稲作社会の発展構造』	島崎隆夫	100
カール・A・ウィットフォーゲル著 アジア経済研究所訳『東洋的専制主義』	平野絢子	101
務台理作著『現代のヒューマニズム』	白井厚	101
平沢豊著『漁業生産の発展構造』	高山隆三	102
日本生産性本部 生産性研究所編『国民のくらしと第三次産業』	佐藤保	103

階層分解の不透明性

——外房総漁業についての事例的研究——

青 沼 吉 松

まえがき

漁場の遠近、あるいは操業海域の広狭によって、海面漁業を沿岸・沖合・遠洋の三つに分けることができる。漁獲高において、一九三五年頃には、沿岸漁業の比重が圧倒的に大きく、四分の三にもなっていたが、戦後、沖合漁業が急速に発展し、その反面、沿岸漁業は衰退の一路をたどった。最近、両者はほぼ同じくらいになり、それぞれ約四〇%の重みをもっている。戦後、漁獲高は伸長して、戦前の最盛時を凌駕するまでになっているが、この発展の中心となったのは沖合漁業である。今後の発展においては、遠洋漁業に期待がよせられている。しかし、現在のところ、沖合漁業がわが国漁業の中核的部分となっている。

中心となっている労働力の性格からして、漁業の経営形態を区別すると、家族労働力中心の漁家と賃労働力中心の企業体との二つが出てくる。沿岸漁業のなかでも、地びき網・大型定置網漁業などの従事者規模は数十人にも及び、これらは明らかに企業体に属する。さらに、漁獲高の割合に多くの人員を必要とするイワシあぐり網漁業も、日帰り操業であるというこ

階層分解の不透明性